

91) Cranio-cervical junction AVM の
1 手術治験例

大和田健司・中里 信和 (岩手県立胆沢病
院 脳神経外科)

中枢神経系に発生する AVM の中で, cranio-cer-
vical junction に位置するものは稀である。

症例は38歳男性, 突然の頭痛と嘔吐・目眩にて発症。
入院時, 意識清明, 項部硬直を認めた。CT では TENT
上下に広がるくも膜下出血を認め, 血管写の所見では延
髄背面・右側面から上部頸髄に達する AVM に脳動脈
瘤が合併していた。手術所見から AVM の本態は右
C₁ 根動脈を feeder とする intradural の動脈瘤を
伴う動静脈瘻でありシャント血流が延髄から上部脊髄に
かけて, red veins を発達させていたものと判明した。
Feeder 及び drainer とともに動脈瘤を摘出したところ
血流動態は正常化し, 患者は神経脱落症状もなく元氣
に社会復帰した。

92) 傍延髄部動静脈奇形の 1 例

太田 守・藤田 隆史 (福島県立医科大)
鈴木 恭一・山野辺邦美 (学 脳神経外科)
後藤 健・児玉南海雄

最近我々は, 椎骨動脈から nidus を欠き, 直接静脈
に短絡している傍延髄部動静脈奇形の一症例を経験した
ので報告した。症例は65才男性で, くも膜下出血にて発
症。入院時意識レベルは30で, 右顔面神経麻痺, 右下位
脳神経麻痺, 右半身不全麻痺, 右半身知覚障害が認めら
れた。血管撮影では, 右 C₁ のレベルで椎骨動脈から直
接異常静脈が分岐している像が認められた。1985年12月
2日右椎骨動脈が硬膜を貫いた部位で直接静脈が吻合し
ており, 同部を充分焼灼し clip をかけ切断した。術中
所見からは, 椎骨動脈から nidus を介さず静脈に直接
短絡した形式の A-V fistula であり, 稀な形態と思わ
れたので報告した。

93) Posterior fossa AVM 7 例の経験

西澤 義彦・斎木 巖
村上 寿治・今野 譲二 (岩手医科大)
高橋 明・阿部 秀一 (脳神経外科)
立木 光・土肥 守
金谷 春之

Posterior fossa AVM は脳外科手術の困難な疾患
の一つである。最近の 5 年間に経験した 7 例の臨床像・
治療法について若干の考察を加え報告する。年齢は 9 ~
72才, 女 2 例・男 5 例で, aneurysm の合併が 2 例,
多発 AVM を一例に認めた。発症は 6 例が出血発作,

1 例が痙攣発作であった。部位別に hemisphere 3 例,
flocculus 1 例, brain stem 1 例, IV ventricle 1 例で
ある。治療は IP-PC aneurysm と brain-stem
AVM の一例では neck clipping と AVM explor-
ation, VA-AICA aneurysm と hemisphere AVM
の一例は neck clipping と feeder ligation, 5 例で
excision AVM を行ない, residual AVM の一例で
二期的 excision を行なった。退院時 ADL は excel-
lent 5 例, good 1 例, poor 1 例であった。

94) 後下小脳動脈末梢部動脈瘤の一治験例

石橋 安彦・大原 宏夫 (大原綜合病院)
脳神経外科

症例は, 47才, 男性, 昭和60年9月16日, 突然にめま
い, 頭痛, 嘔吐で発症し当科入院した。入院時, 軽度意
識障害, 項部強直と両側注視性眼振を認めた。CT
scan では, 第4及び第3脳室内血腫と水頭症が認めら
れた。脳血管撮影で右後下小脳動脈の vermian
branch に 4 × 6 mm 大の嚢状動脈瘤を認めた。発症
55日目に, 両側後頭下開頭にて, 脳動脈瘤のクリッピン
グを施行し, 術後経過良好であった。椎骨脳底動脈系の
脳動脈瘤の中でも, 比較的稀な後下小脳動脈末梢部動
脈瘤の治験例について報告し, 文献的に考察した。

95) Distal pica AN の 2 症例

作田 善雄・椎名 巖造 (長井市立総合病
院 脳神経外科)

distal pica AN の頻度は, 全頭蓋内動脈瘤の 1%
以下といわれ稀なものである。

我々は, 54才と65才の女性の 2 症例を経験したが, 臨
床症状以外の共通所見として, CT 上第4脳室の HDA,
Angio 上, AN 内への造影剤の pooling, そして, 手
術所見として動脈瘤の血栓化などの特徴的な所見が認め
られたので報告する。

なお, 54才例には neck clipping, 65才例には ane-
urysmectomy (25 × 20 × 20mm の giant AN) を行
い, いづれも良好な結果を得ている。

96) 脳底動脈瘤手術の問題点

佐藤 昌宏・佐藤 正憲 (福島県立医科大)
菊池 泰裕・松本 正人 (学 脳神経外科)
佐々木達也・児玉南海雄

過去 3 年間に 14 例の上位脳底動脈瘤を経験し, 我々が
主に行っている subtemporal approach の術中写真
を含め, 手術法の問題点について報告した。症例は男性
4 例, 女性 10 例, 年齢は 38 才 ~ 69 才, 脳底動脈末端部